

-ありがとう 福島県校友のみなさま-

晩秋の週末、うっすらと雪の積もった会津磐梯山が私たち会津コース一行を迎えてくれました。今年、会津が大河ドラマの舞台となったこともあり、この土地に関心を持たれた方も多いと思います。実際に訪れてみれば、魅力あふれる色々が、私たちの旅を彩ってくれました。白虎隊ゆかりの飯盛山から眺める鶴ヶ城、また日新館見学では、幕末に思いを馳せずにはいられませんでした。江戸時代から栄えたという宿場、大内宿では今も茅葺の家屋が軒を連ね、まるで日本の原風景の中へタイムスリップしたよう。宿泊先の会津東山温泉 くつろぎ宿新滝 は、なんと校友の大先輩とその奥さまが経営に携わる、趣きのある素敵なお宿。その昔、東山温泉は会津藩の湯治場だったとのことで、会津の武士たちもこのお湯に浸かったのかと思うと、味わい深いものがありました。会津の美味しい地酒と郷土料理に舌鼓をうち、全国から集まった校友や福島県校友の皆さまと楽しいひとときを過ごしました。福島県校友のみなさまの、あたたかで型にはまらない人柄に、親しみを感じたのは私だけではないでしょう。

この様に、魅力あふれる土地ではありますが、震災後、会津も含めて福島県は、風評被害に苦しんできた経緯があります。そのような状況に対処すべく、ネットショップ 福島屋商店 を立ち上げ、頑張っている先輩校友のお話を伺い、また、福島屋商店に出店する野菜生産者の畑兼直売所を訪ねて、交流する機会を得ました。直売所脇での、鍋やお餅のおふるまいが、嬉しかったです。畑でまるかじりさせてもらった野菜の甘かったこと！！（寒暖の差が影響しているそう）野菜生産者 高橋千鶴子さんとそのお仲間の、家族のような温かさも忘れられません。ネットをのぞいて頂ければわかりますが、現在福島屋商店では、福島の農産物・加工品ほか扱っているらしいです。それに加え、今後は立命館大学被災地応援ツアーにヒントを得て、福島旅行（被災地見学や福島の色々を体験できるコースなど数コース）も考えているらしいです。外国の旅行社（者）向けにプレゼンテーションを予定されているとのことでした。

“援助はありがたかった。でも、これからは福島の魅力を肌で感じてもらって、お金を落としてもらって、私たちもどうにか福島再生のために頑張っていきたい”との言葉が胸にひびきました。私たち個人が、日々の生活の中でできることは多くはありません。ですが、ネットショッピングなり旅行なり、微力でも自分ができる方法で福島を応援し続けていきたい、と強く思いました。これをお読みの校友の中にも、震災後被災地の産品やサービスを購入することで、応援して下さっている方も多いと思います。今後はぜひ、福島屋商店・会津東山温泉 くつろぎ宿新滝・そして福島県校友がいらっしゃる、スパリゾートハワイアンズを ご利用の候補に入れて頂ければと思います。

被災地を訪ね学ぶことは、自分の生活の中で何ができるかを考えること・被災地を応援することでもあります。全国の校友のみなさま、機会がありましたら、ぜひ東北を訪れてみて下さい。

最後に、日本は災害の多い国でもあります。私自身の震災時の経験から、どの地域にお住まいの方でも、災害に備えて当座の食糧・燃料ほかを備えておくことをお勧めします。同時に（想像するのは難しいかもしれませんが）いざという時自分や家族はどう動けるか（どんな助けが必要か、誰の助けになれるか）をシュミレーションしておくことで、対処できることがあるかと思えます。

東北から遠く離れて、この様な企画を実施して下さる立命館大学と関係者の皆さまに、感謝。